

水稻の生育状況と今後の管理対策（第3号）

令和4年7月12日
新潟県農林水産部

〔7月11日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「薄い」生育状況ですが、草丈と葉色の地域差、ほ場差が大きくなっています。
- ◎ 新之助では指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数及び葉数の進みは「並」、葉色は「薄い」生育状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月7日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、特に期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されています。
- ◎ 高温気象により、水稻の生育は平年より早まり、幼穂形成期および出穂期は平年より3日程度早まる見込みです。
- ◎ 気温が高いことから、葉色の低下が見込まれるため細心の注意が必要です。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 穂肥^{*1}前に高温が続く見込みであることから、葉色の急激な低下が懸念されます。土壌からの窒素供給を図るため、飽水管理^{*2}を継続してください。
- ◎ 出穂期は県全体の平均で平年より3日早い8月2日頃と予測されますが、生育の地域差やほ場差が大きくなっていることから、生育診断を必ず行い、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、穂肥を適正に施用してください。
- ◎ コシヒカリは、早めに幼穂形成期を把握し、生育診断を実施した上で、1回目の穂肥（出穂期18～15日前）を確実に施用しましょう。

新之助

- ◎ 出穂期は県全体の平均で平年より2日早い8月8日頃と予測されます。
- ◎ 中干しは遅くとも出穂期の1か月前をめどに終了し、終了後は、発根促進や根の活力維持のため、浅水の間断かん水^{*3}を行い、徐々に飽水管理へ移行してください。
- ◎ 葉色の低下が激しいほ場ではさらなる低下に注意し、場合によっては早めの穂肥対応を検討してください。
- ◎ 新之助はいもち病に弱いので、ほ場で葉いもちの発生を注意深く観察し、病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*3 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法のこと

早生品種 (参考)

- ◎ 地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考に、出穂期 14 日前をめやすに 2 回目の穂肥を必ず施用してください。
- ◎ 特に多収性品種では、収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底するとともに、飽水管理を出穂期 25 日後まで継続してください
- ◎ 斑点米カメムシの多発地域や前年被害が多かったほ場では、出穂時期に留意し計画的な除草と防除を徹底してください。
- ◎ 多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

用水の効率的な利用への対応

- ◎ ほ場の見回りを行い、水路や畦畔等からの漏水がないように点検・補修を行ってください。
- ◎ こまめに水回りを行い、入水したら速やかに水口を止めてください。
- ◎ 用水が不足している場合は湛水せず、走り水程度のかん水とし、節水に努めましょう。

熱中症予防

- ◎ 蒸し暑い気象が続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日
7月26日、8月8日、9月8日

〔補足資料〕

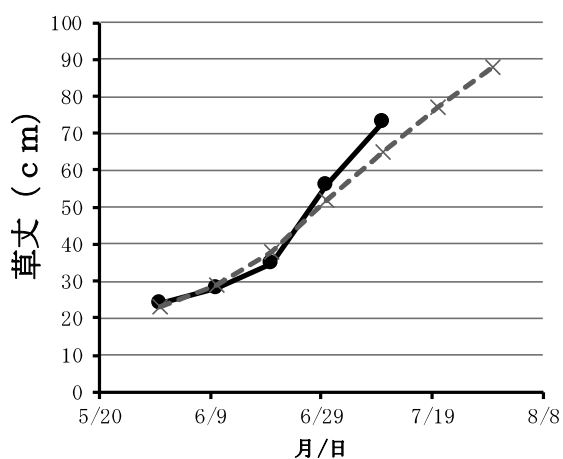
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月11日現在）

コシヒカリ

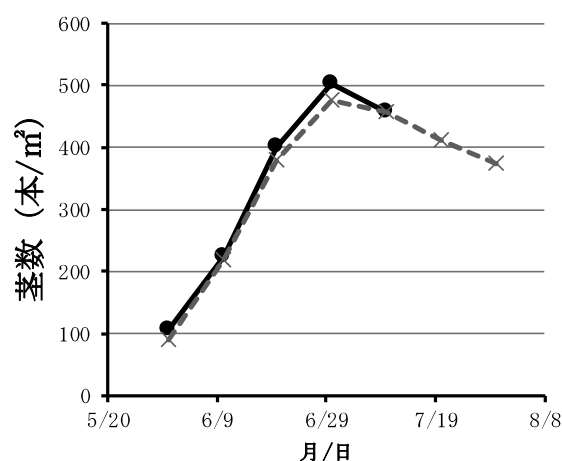
○ 指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	73 cm	65 cm	長い	112%
茎数	458 本/m²	456 本/m ²	並み	100%
葉数	11.3 葉	10.9 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	33.8	36.0	淡い	-2.2

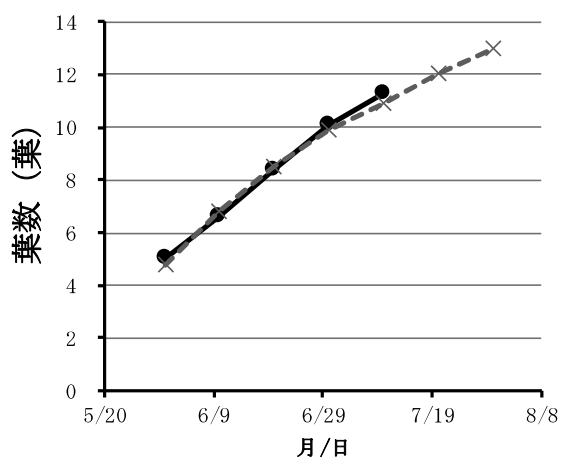
注) 県内全域の98生育調査ほデータの平均値



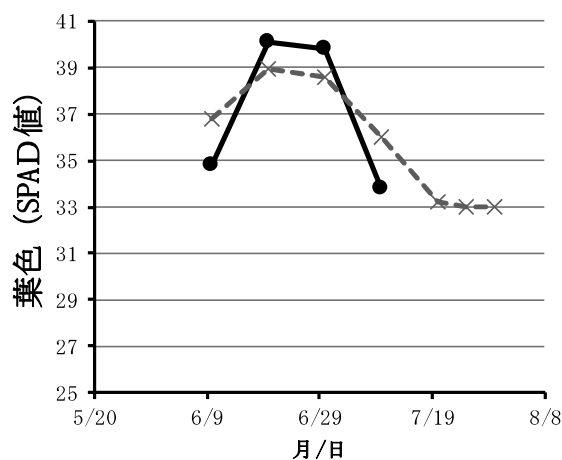
草丈の推移
(県全体)



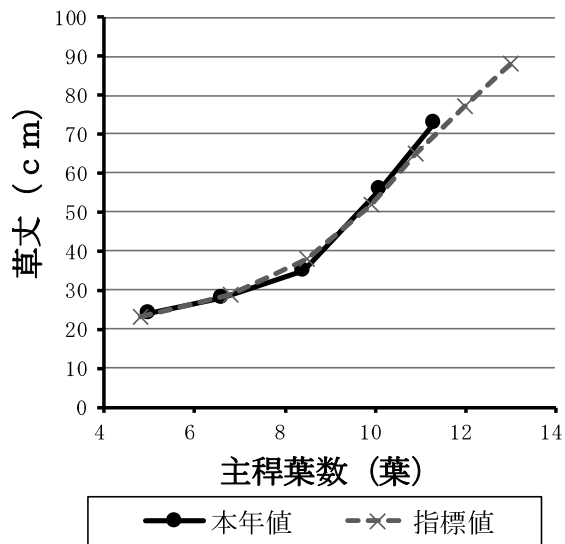
茎数の推移
(県全体)



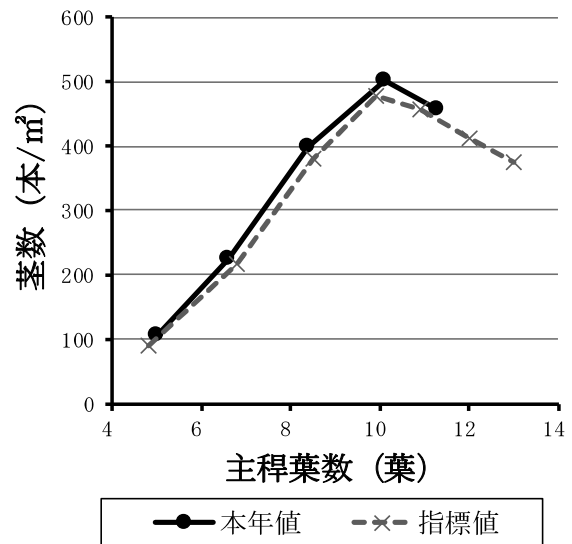
葉数の推移
(県全体)



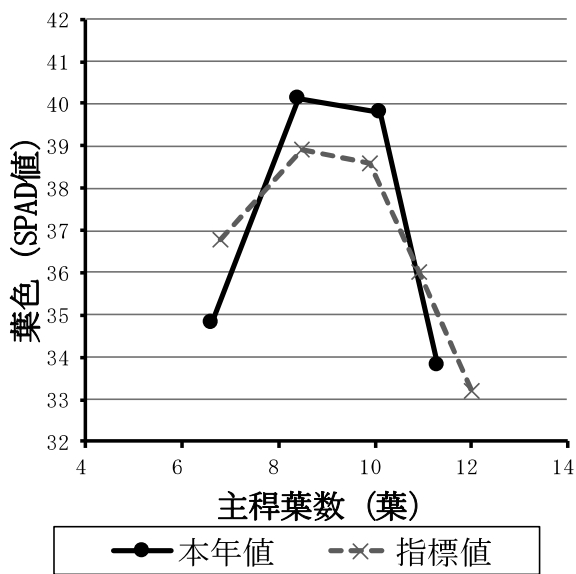
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



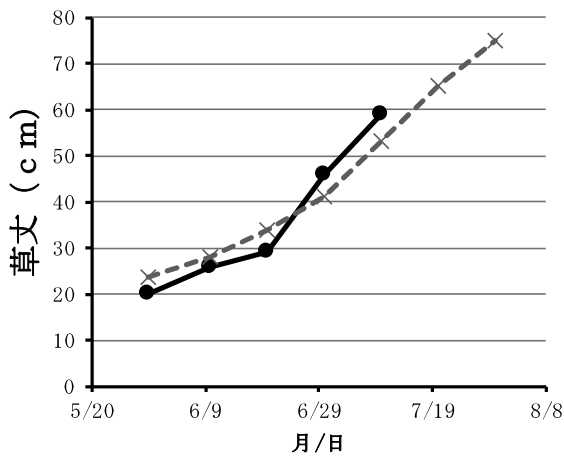
葉数と葉色
(県全体)

新之助

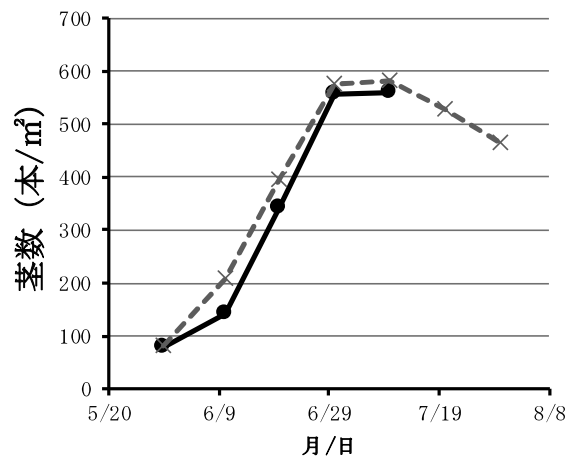
○ 指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数及び葉数の進みは「並」、葉色は「薄い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	59 cm	53 cm	長い	110%
茎数	561 本/m²	582 本/m ²	並	96%
葉数	11.5 葉	11.3 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	33.0	36.0	薄い	-3.0

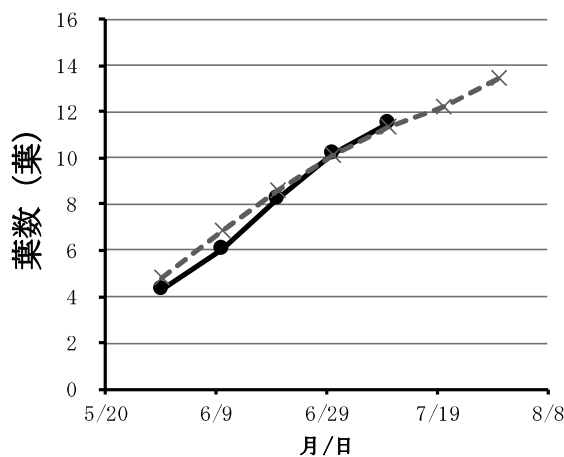
注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値(田植え5月16日、栽植密度16.0株/m²)



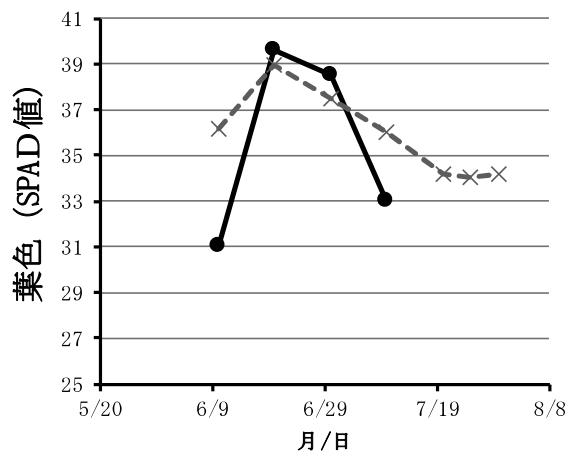
草丈の推移
(県全体)



茎数の推移
(県全体)



葉数の推移
(県全体)



葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

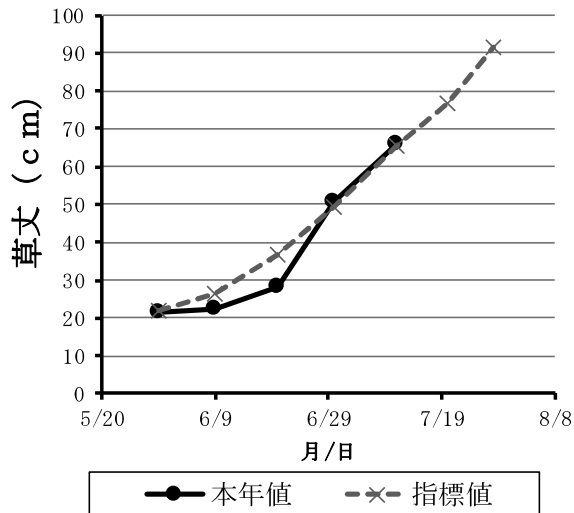
○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「薄い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	66 cm	66 cm	並	100%
茎数	473 本/m ²	542 本/m ²	少ない	87%
葉数	11.5 葉	11.7 葉	並	-0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	34.6	38.0	薄い	-3.4

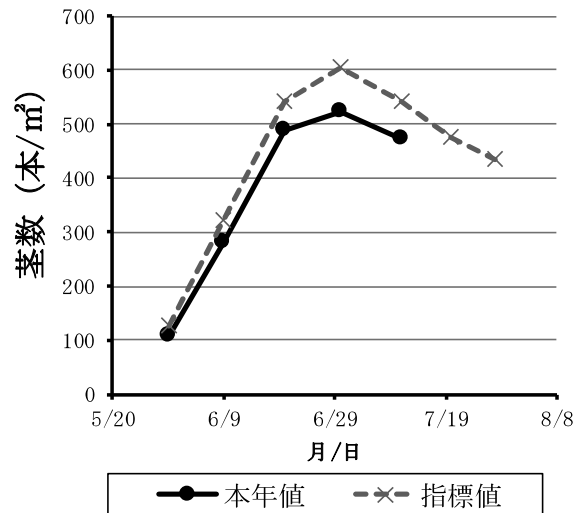
注1) 化学肥料栽培 田植え5月11日、栽植密度22.2株/m²、幼穂形成期7月5日(平年差-1)

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量2.0kg/10a (1.0kg×2回分施:1回目7月5日)

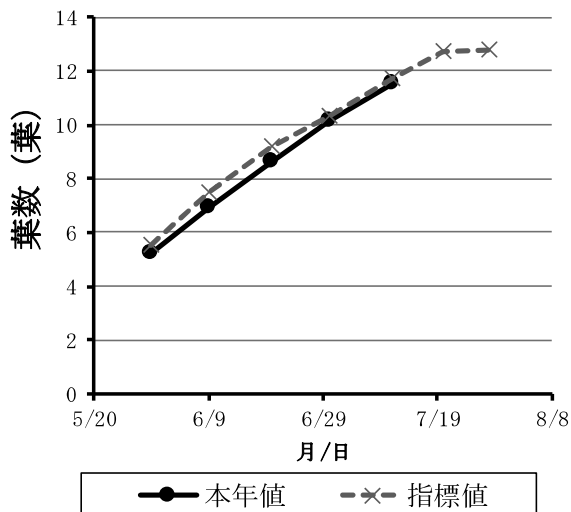
注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



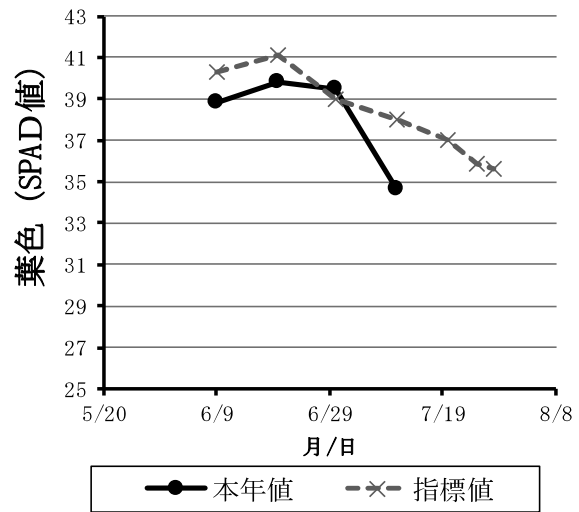
草丈の推移



茎数の推移



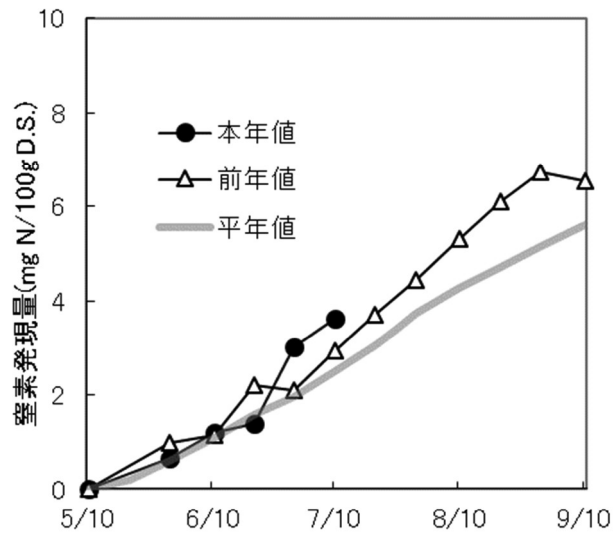
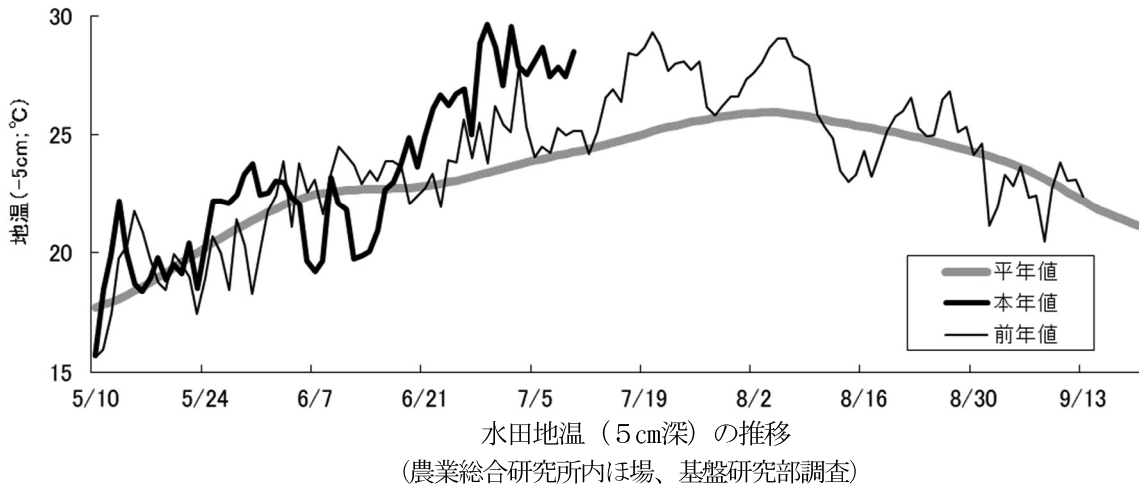
葉数の推移



葉色の推移

2 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 6/30～7/11の期間の日平均地温は、平年差+4.1℃でかなり高めでした。地力窒素の発現量は高く推移しました。



地力窒素発現量の推移(7月11日)
 (農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
 初期値=0、移植日：5月10日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a